

施策評価シート

施策等名称	がん対策	体系番号	0101010501
		主管課	健康づくり推進課

1 施策基本情報

現状と課題	市民の死亡原因の第1位は、がんです。市で行っているがん検診は受診率が低い状態です。職場で実施するがん検診の状況が未把握のため、実際の未受診者が把握できていません。平成30年度から、40歳、50歳、60歳の節目の年齢の方の検診自己負担額を無料にし、受診勧奨を行っています。健康ポイント事業を開始し、がん検診を受診した方にポイントを付与し、受診のきっかけづくりを行っています。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	がんによる死亡を減らすために、若い世代からがん検診を受ける人を増やす取組を行います。また、がんの発症を予防するために、食生活改善や運動不足解消等に市民の皆さんが取り組めるようになることを目指します。がん検診を受けた方で精密検査が必要になった場合の結果を把握し受診していない場合は、受診勧奨を行います。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値
				2027年度目標値
①	75歳未満のがん年齢調整死亡率 男性	年齢調整したがん死亡率(率)	81.20	80.00
②	75歳未満のがん年齢調整死亡率 女性	年齢調整したがん死亡率(率)	62.70	58.00
③	40～59歳のがん検診受診率	40～59歳 受診者/対象者(%)	35.40	36.00

施策の柱 1	名称	がん対策	主管課	健康づくり推進課			
	詳細	がんの死亡率を減少させるため、がん検診を受ける人を増やすよう取り組みます。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	75歳未満のがん年齢調整死亡率 男性	年齢調整したがん死亡率(率)	81.20	80.00	1 各種がん検診事業	実施
						2 B・C型肝炎検査事業	実施
	2	75歳未満のがん年齢調整死亡率 女性	年齢調整したがん死亡率(率)	62.70	58.00	3 健康づくりポイント事業	実施
						4	
	3	40～59歳のがん検診受診率	40～59歳 受診者/対象者(%)	35.40	36.00	5	
						6	
	基本政策間連携						
	施策の体系	名称		主管課			
		詳細					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
1					1		
					2		
2					3		
					4		
3					5		
					6		
基本政策間連携							
施策の柱 3		名称		主管課			
		詳細					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1				1		
					2		
	2				3		
					4		
	3				5		
					6		
	基本政策間連携						

施策等名称	がん対策	体系番号	0101010501
		主管課	健康づくり推進課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	75歳未満のがん年齢調整死亡率 男性 (柱1-1目標を兼ねる)	81.20	78.40	78.50	未確定		
		1	80.00	233.33	225.00	#VALUE!	
変動要因等	2018年度	実績は、最新で把握している数値。(H24～28年の平均値) 死亡率は減少し、目標を達成している。					
	2019年度	実績は、最新で把握している数値。(H25～29年の平均値) 死亡率はほぼ横ばい。目標を達成している。					
	2020年度	未確定					
	2021年度						
	2022年度						
施策	75歳未満のがん年齢調整死亡率 女性 (柱1-2目標を兼ねる)	62.70	55.50	49.00	未確定		
		2	58.00	153.19	291.49	#VALUE!	
変動要因等	2018年度	実績は、最新で把握している数値。(H24～28年の平均値) 死亡率は減少し、目標を達成している。					
	2019年度	実績は、最新で把握している数値。(H25～29年の平均値) 死亡率は前年度よりも、減少している。					
	2020年度	未確定					
	2021年度						
	2022年度						
施策	40～59歳のがん検診受診率 (柱1-2目標を兼ねる)	35.40	38.50	40.70	31.50		
		3	36.00	106.94	113.06	87.50	
変動要因等	2018年度	2018年度は、40歳、50歳の方に受診勧奨を行い、自己負担を無料にしたため、増加。					
	2019年度	2019年度についても昨年度同様の取組を行い、受診率がやや向上した。					
	2020年度	新型コロナの影響もあり、受診者が減少してしまった。					
	2021年度						
	2022年度						
施策							
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
施策							
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						

施策等名称	がん対策	体系番号	0101010501	
		主管課	健康づくり推進課	

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年 (前年度比)		2019年 (前年度比)		2020年 (前年度比)		2021年 (前年度比)		2022年 (前年度比)		
投資額	事業費(円)	39,030,069		41,006,473	1.05	35,650,443	0.87	42,187,000	1.18			
	うち一財(円)	35,686,669		37,832,873	1.06	32,885,215	0.87	39,521,000	1.20			
	増減理由 (一般財源 前年度比 ±10%以上 の場合に 記載)					コロナの影響で受診者が減少したため						
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		やや遅れている						
総合評価	主な取組内容や成果	30年度から40歳50歳60歳の方は、がん検診の自己負担金を無料にし、受診票を発送した。胃・大腸・子宮がん・エコー検診の受診者は、29年度節目の受診数293件から537件と約1.8倍に増加。大腸がん検診の容器は、取りに来ていただいていたのを郵送に変更し受けやすくした。		昨年度に引き続き節目年齢の方への受診勧奨と自己負担額無料にしたことで、若い年代の受診率が向上した。案内通知についても、わかりやすいものに変え、無料の受診券ではなく、無料の受診票に変更した。		新型コロナの影響はあったが、感染予防を行った上で検診を行うことができた。						
	課題	受診勧奨通知には、概要のみ掲載していたため、対象の方が気づいた時には検診が終了していたケースがあった。マンモグラフィ検診が、節目の対象者がずれるため、無料にできなかった。		マンモグラフィ検診のみ対象者がずれるため、無料にできない。		感染が心配される方もおり、集団検診の受診勧奨を例年どおりに実施することができなかった。						
改革・改善	改革・改善内容	受診勧奨通知を改善することで、検診について受診者の方に内容が伝わるようにした。また、30年度に受けそびれた方については、2019年度に無料で受けられるようにした。肺がんCT検診は、7月のみ実施でなく、秋、冬にも実施することにした。今後マンモグラフィ検診も無料にするよう検討する。		肺がん検診は、夏と秋に実施したことで、受診者が増えた。来年度、マンモグラフィ検診については、無料にせず、受診勧奨のみ行う計画を立てている。		国のがん検診推進の方針に沿った対象者の見直しを行い、3年度の計画を立てた。						
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1		1		1					
		重点事務事業	1		1		1					
理由	がん検診を受ける人を増やすことで、がん死亡を減らすことにつながります。受診率を上げるため、節目の方に受診勧奨をしていきます。		がん検診を受ける人を増やすことで、がん死亡を減らすことにつながります。受診率を上げるため、節目の方に受診勧奨をしていきます。		がん検診を受ける人を増やすことで、がん死亡を減らすことにつながります。受診率を上げるため、節目の方に受診勧奨をしていきます。							

作成担当者	小穴 範子	小穴 範子	小穴 範子		
最終評価責任者	両角 直樹	両角 直樹	依田利文		
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月10日	2021年5月31日		